

二〇二四年度

入学試験（一次A）問題

国語

- ・答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- ・ぬき出し問題や記述問題では、句読点や記号も一字と数えること。

横須賀学院中学校

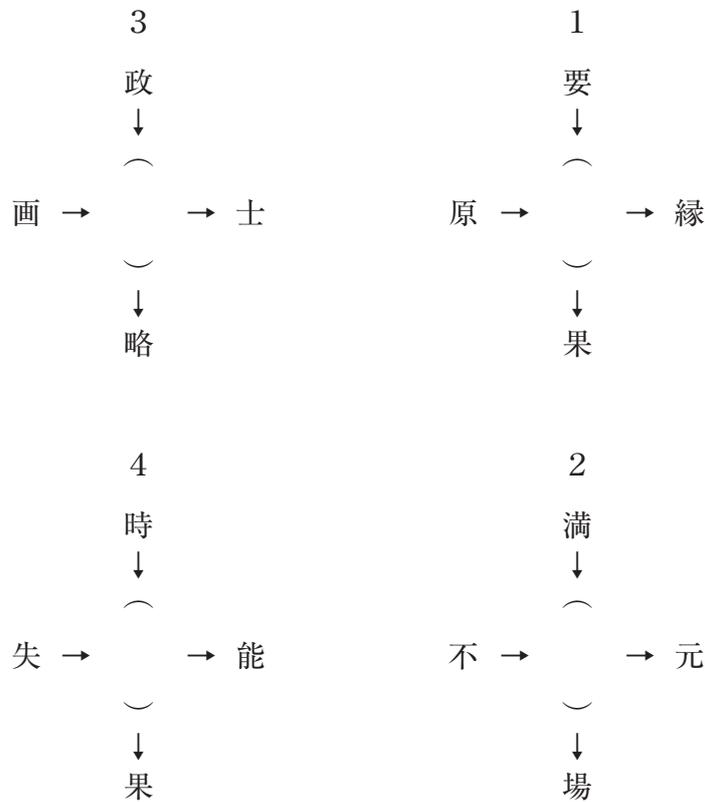
一 次の一 部について、漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直

しなさい。

- 1 医師にシヨホウされた薬を飲む。
- 2 テンケイ的な春の気候である。
- 3 チームを勝利にミチビいた。
- 4 成り行きにマカせる。
- 5 強い口調でしかる。
- 6 相手の言葉を曲解する。
- 7 中華料理店を営む。
- 8 お年寄りを敬う。

二 次の（ ）に漢字を一字ずつ入れて矢印の方向に読むと熟語

が四つできます。（ ）にあてはまる漢字をそれぞれ答えな
さい。



三

(1) 次の□に同じ漢字を入れてそれぞれ四字熟語を完成させなさい。

(例) □人□色 答え ↓ 十

1 □材□所

2 右□左□

3 □信□疑

4 □者□様

5 □三□四

6 □利□欲

(2) また、次の内容に合った四字熟語を(1)の1～6の中からそれぞれ選び、番号で答えなさい。

ア、能力や性格にあった仕事や地位に配置すること。

イ、考え方ややり方などが、人によってそれぞれ違ちがうこと。

四 次の先生と生徒の会話を読んで、後の問いに答えなさい。

先生…二〇二四年七月に一万円札などのデザインが変更になることは知っていますか。

生徒…はい、一万円札は約四十年間、著書『学問のすすめ』で有名な [1] が肖像画として使われていましたが、渋沢栄一に変更になるというニュースをみました。

先生…そのほかの紙幣も千円札は野口英世から破傷風を予防・治療する方法を開発した北里柴三郎に変わります。

生徒…野口英世の伝記は読んだことがあります。命をかけて黄熱病の研究に取り組む姿に感動しました。

先生…野口英世は北里柴三郎が所長を務める北里研究所で研究員をしていましたから、北里柴三郎の弟子だといえます。北里研究所は現在の北里大学につながります。

生徒…北里柴三郎は教育者でもあるのですね。一万円札の [1] も慶應義塾大学の創設者ですね。

先生…五千円札の肖像画も変更になります。誰から誰へ変更になるか、また、それぞれ何をした人だか知っていますか。

生徒…五千円札は樋口一葉から津田梅子になります。樋口一葉は女性小説家です。代表作の [2] は、昔の文体で書かれているため、中学生向けの現代語で書かれたものを読みまし

た。少年少女の淡い恋を軸に子供たちの成長が描かれた作品でした。いずれは原文でも読んでみたいと思います。津田梅子のことは詳しく知りません。何をした人ですか。

先生…津田梅子は日本初の女子留學生の一人でした。留学中に女子教育の重要性を感じ、後に学校を創設し、日本の女性教育のために生涯を捧げました。当時、女学校に進学するのは裕福な家庭の女子達でしたが、津田梅子が創設した女子英学塾は、貧富の区別なく、学ぶ意思があれば、誰もが等しく教育を受けることができました。女子英学塾は津田塾大学につながります。

生徒…現在、多くの女性が社会で活躍しているのは津田梅子の功績が大きいですね。

先生…はい。紙幣の肖像画に用いられる人は、医療や教育など私達の生活を大きくよい方向に変えた人が採用されるようですね。

*1 破傷風…傷口から破傷風菌が入ってかかる病気。ひどくなると激しいけいれんが起り、死ぬことも多い。

*2 黄熱病…蚊に刺されることによって感染する感染症。

問一 1 にあてはまる人物名を次の中から一つ選び、記号で

答えなさい。

ア、芥川龍之介あくたがわりゅうのすけ

イ、夏目漱石なつめそうせき

ウ、福沢諭吉ふくざわゆきち

エ、川端康成かわばたやすなり

問三 会話文の内容と照らし合わせて、正しいものを次の中から一

つ選び、記号で答えなさい。

ア、破傷風を予防・治療する方法を開発した野口英世は、北里大学を創設した北里柴三郎の教えを受けた人物である。

問二 2 にあてはまる作品名を次の中から一つ選び、記号で

答えなさい。

ア、源氏物語げんじものがたり

イ、枕草子まくらのそうし

ウ、たけくらべ

エ、みだれ髪がみ

イ、現在流通している一万円札の肖像画として用いられている洪沢栄一は、約四十年前から紙幣の肖像画として使用されている。

ウ、二〇二四年七月から発行される五千円札は、女性初の職業小説家である樋口一葉が肖像画として用いられる予定である。

エ、津田梅子は、女性が学問を学ぶことがめずらしい時代に、女性の地位向上を目指して女性教育の推進に力を注いだ人物である。

C 仔犬こいぬの時分に、こんなに大きくなるとは思わず、出来合
いが一番安いのを買って間に合せていたので、大分窮屈きゅうくつになつて
いた。影虎は犬小屋に入りたがらず、小雨こさめぐらいだと外で濡ぬれてい
ることがあった。

日曜の一日をつぶして、カッチャンは材木とペンキを買ってきて
働いていた。

うす暗くなる頃ころ、ラケットを抱かかえて帰った達子は、門柱につなが
れている影虎の口のまわりに血がついているので肝7をつぶしたが、
落着いてよくみると血と思つたのは赤いペンキだった。

玄関の横に、笑つてしまうほど大きな犬小屋が出来ていた。屋根
に塗ぬった赤いペンキを、そばの立木につながれていた影虎が働く
カッチャんにふざけかかつて、なめたものと判わかった。

その晩、カッチャンははじめて家に上あがり、家族と一緒に夕飯を食
べた。家族といつても、兄は帰つてこないで、父と母、達子の三
人だったが。

毎日魚だろうから、と母は気を利きかしてすき焼の支度したくをしてい
た。カッチャンは一人ですき焼の鍋なべを仕切り、父にビールをつぎ、
冗談じょうだんを言いつて皆みなを笑わせた。

兄がうちを出てから、目立めずらつて口数がすくなくなつた父も、この
日は珍めずらしく白い歯をみせ笑い声を立てた。

カッチャンはよくしゃべつた。

大きい声では言えないが、魚富のおやし8さんはそう長くないと
医師に言われている。夫婦に子供がないので、自分を養子にして魚
富をついでもらいたいとほ9のめかされているが、決心がつかない
でいる。

「魚も顔が無きやいんだけどなあ。顔があつて目があるでしょ。
はじめはおつかなくてねえ」

はじめから切身の魚はいないよ、と父*6がまぜ返した。

魚富は三代目で、裏の二軒*7の家作をつぶせばかなりの坪数*8の敷
地になる。そこへマンションを建てれば上*9りだけでも暮せるし、
スパーに押おされている街の魚屋の将来性も考えて、小綺麗*10な店を
出すのもいいと思つているが、喫茶店*10がいいかな、スナックがいい
かな、と達子の目をのぞき込むように話したりした。

すき焼*10が終り、食後の西瓜*10が無くなつてもカッチャンは腰*10を上
げなかつた。

鰈*10と平目*10の見分けかたを説明し、皮はぎが、

「キュウキュウ」

と、靴*10が鳴るときのような声を立てて鳴くと口真似*10をしてみせた
りした。

話題がと切れて、じゃあ D、と言われるのがこわい、と

いった風に、引つきりなしにしゃべり、煙草たばこに火をつけた。煙草が煙けむりを立てている間は、お開きにしましょうと言われなことを知って、そうしているように思えた。

こういうとき、カッチちゃんの目は笑っている癖くせに泣きべそをかいているようにみえた。

泣きべその目で、カッチちゃんは犬地図のはなしをした。

誰だれかの受け売りらしいのだが、犬には犬地図というのがあるという。

これは人間の考える地図とは全く別のもので、どことどここの電柱と垣根かきねにはおれの匂においをつけてある。どこにいじめっ子がいて、どこにご馳走ちそうをくれるうちがあり、どこに憧れあこがの牝めすがいるか、ちゃんと頭あたまの中に描えがいてあるのだ、としゃべった。

朝の早い父があくびを洩もらし、それをしお*11に母が布団ふとんを敷しきに立ち、やつとカッチちゃんは帰ったわけだが、

「犬地図ねえ」

と眩くらいた母に、

「¹¹ありや自分のことだな」

父は、よく判っているようであった。

(むこうだくとこ
向田邦子『犬小屋』より)

* 1 三日にあげず：三日と間をあけずに。

* 2 アラ：魚の身を除いた残りの骨や頭。

* 3 羽目板：壁かに張るための板。

* 4 当座：しばらくの間。

* 5 同棲：いっしょに住むこと。

* 6 まぜ返した：わきから口出してからかった。

* 7 家作：人に貸す目的で作った家。

* 8 坪：面積の単位。

* 9 上り：収入。

* 10 スナック：アルコールを提供する飲食店。

* 11 しおに：きっかけに。

問一

A) D) にあてはまる最もふさわしいものを、次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい(同じ記号を二回使ってははいけません)。

ア、まだ イ、みるみる ウ、もともと

エ、おのおの オ、そろそろ カ、またまた

問三

——2「大人の腕ほどもある太い尻尾を、犬小屋の羽目板に打ちつける音が、茶の間にも聞えるほどだった」とありますが、このときの「影虎」についての説明として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、達子と仲良くなりたいたいという下心を持つカッチャンのことを警戒している。

イ、自分に餌をくれる優しい人間として、カッチャンのことを歓迎している。

ウ、何度も謝罪に訪れることをあわれに思っ、カッチャンを赦そうとしている。

エ、再び毒のある魚を与えられると思、カッチャンから隠れて震えている。

問二

——1「()なもの」について、「損得によって態度を急に変える」という意味になるように、()内に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、大人 イ、現金 ウ、身近 エ、貴重

問四

() 3 () 6 () にあてはまる共通した言葉としてふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、気にならない イ、身にならない

ウ、問題にならない エ、馬鹿にならない

問五

——4「うちの厄介もの、といったところがあった」とあります。その理由として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、影虎をもらってきた兄は全く面倒を見ずに、家の者が交代で面倒を見ているが、犬自身は感謝の姿勢は一切見せずに大きな態度を取っているから。

イ、影虎の面倒を見るはずの兄が家を出てしまったが、家族全員で犬をかわいがることで家族のきずなが深まったので、みんな感謝をしているから。

ウ、もらってきたときには小さな犬であったが、想像以上に大きくなって世話が大変になった上に、犬をもらってきた兄は面倒を見ないから。

エ、兄が家に帰らなくなったのは影虎のせいだと家族全員が思っていて、カッチャンが影虎をもらってくれどありがたいと思っているから。

問七

——7「肝をつぶした」・——9「ほのめかされている」の意味として最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

7「肝をつぶした」

ア、心を痛めた

イ、目を背けた

ウ、気持ちが悪くなった

エ、とてもおどろいた

9「ほのめかされている」

ア、それとなく態度にあらわされている

イ、真正面からはっきりと言われている

ウ、はっきりとは言わずにあやふやにされている

エ、都合がよければとすすめられている

問六

——5「手入れ」とは、具体的に何をすることですか。「〜こと。」に続くかたちで文章中から七字でぬき出しなさい。

問八

——8「そう長くない」とありますが、何が長くないのですか。漢字一字で答えなさい。

問九

——10「腰を上げなかった」とありますが、それはなぜですか。次の空らんにあてはまる語句を、文章中の言葉を使って十字以上十五字以内で答えなさい。

達子やその家族とのせつかくの食事会を（ ）から。

問十

——11「ありや自分のことだな」とありますが、父がそのように感じた理由として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、カッチャンが犬を口実に毎日家にくるが、その目的は夕飯をご馳走になることのみでいやしい男だと感じたから。

イ、一人暮らしのカッチャンが手伝いをきっかけに家に住みつこうとしているのは、まるで犬のようだと感じたから。

ウ、カッチャンが影虎の件で迷惑をかけた人たちを、さらに怒らせないように機嫌を取っているように感じたから。

エ、カッチャンは達子に恋心を抱いているため、達子に近づくために毎日家に来て犬の世話をしていると感じたから。

六 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

たまたま泊とまった那覇なはのホテルの窓に小さな甲虫*1がとまっていた。ガラスの外側で、地上から十一階の高さ。よく晴れて暖かいことはさっきの散歩で確認している。

虫は全長七ミリくらい。テントウムシほど丸くはなく、かと言ってカメムシのように角張かどってもいない。言いうまでもなく腹はらの側しか見えないから背に模様があるか否いなかはわからない。

しばらく見ていたのだがまったく動かない。そして、ふっと飛び立って行った。

この甲虫にとって外界とは何かと考えてみる。

空気の暖かさ、上空からの光、微風びふうとそれに含まれるさまざまなか匂におい・臭におい、脚あしに感じるガラスの質感、そこに付着したわずかな埃ほこりなどを見ているかどうか。視界を鳥の影かげがよぎれば気づくのか。

体内の意識には何があるだろうか？ 食たの欲求と時期によっては生*2殖しよくの欲求。不快や危険を回避かいひする用意。そして、生せいきていることの喜び？

なぜあの時点で彼／彼女は飛び去ったのだろうか？ 何かしが充足じゆうじくしたのか、不安の要素が迫せまったのか、別の何かを求めたのか。それとも単なる体内時計の促うながしか。

これくらいで甲虫のその時の生を構成する要素を数え上げたとはくは考える。

二十世紀のはじめ頃ころ、ヤーコプ・フォン・ユクスキユルという生物学者が「unwelt」という概念*3を提唱した。このドイツ語は普通つうならば「環境」とか「外界」という意味だが、分解するとEiが「巡めぐって、囲んで」でweltは「世界」。日本語では「環世界」と訳される。

生物の一個の個体がその感覚から得られた情報によって構成している世界像、というような意味で、だからぼくは窓ガラスに止まった甲虫の環世界を想像してみたのだ。

これがおもしろいのは、分類学を上位から下位へと辿たどるのではなく、これを逆転してまず個体の側から世界を見るところだ。

ユクスキユルは環世界の最も単純な例としてマダニを挙げた。節足動物だが昆虫ではなく、大雑把おおざっぱにはクモに近い。

交尾を済ませたマダニの雌めすは木や草の上で待機*4していて、哺乳動物が下を通るとその上に落ちる。哺乳動物は酪酸らくさんの匂においを発しているのものでそれを感じするのだと言われている。毛皮の上に落ちたことは温度でわかるから、毛の林に分け入ひって皮膚ひふに到いたり、そこで吸

血する。

皮膚を小さく噛み破った部分を自分の分泌液で補強して数日に亘って血を吸い続ける。卵を熟成させるに充分な量の血液が得られたら下に落ちて産卵して死ぬ。

マダニにとつての世界はこれだけの要素から成っている。それ以外は無、という点が大事だ。

犬の場合はどうかと考えてみる。

犬は人間に近いから観察は容易だし、我々は犬の世界を知っていると知っている。なにかと擬人化されやすく、人間の行動を説明する動詞がそのまま犬に用いられる。(4)、ねだる、愛する、拗ねる、怯える、嫌う、怒る……実際にここまで通用するか。

犬の環世界を人間のそれと比較してみる。 **A** 二つの種の意識の間に橋を架ける試み。

最も大きな違いは頭の位置である。哺乳類は感覚器官を体軸の一方に集め、捕食の器官もそこに配置した。ここを顔と呼ぶ。見て、聞いて、嗅いで、味わって、食う。これは極小のトガリネズミから巨大なゾウまで変わらない。

B たいていの動物の場合、顔は地面に近い。例外的なのが類人猿、とりわけヒトである。ヒトは直立二足歩行という他から見ればとんでもない運動様式を採用した。その結果、顔は地面から

はるか遠くになった。

利点はいろいろあった。前足が解放されたので、何かを掴んだり投げたり道具を使ったりできる。頭は脊椎の真上にあるから発達して重くなった脳の保持が容易になった。目の位置が高いので遠くを見ることが可能になり、それに応じて視覚が発達した。 **C**、二足歩行は習得にほぼ一年かかるという問題があり、エネルギー効率も悪いらしい。もともと不安定な姿勢を能動的制御で補っているのだから転倒するという危険もある。四つ足の動物にはまずないとだ(俗に、寝ていて転んだためしはないと言う)。

顔の位置に由来するヒトとイヌの環世界を考えてみよう。外界からの情報の入手法で最も大きな違いは、ヒトが視覚を多用するのに対してイヌは嗅覚に頼ることがずっと多いという点だ。イヌの鼻は地面のすぐ近くにあつて微細な匂い物質を取り込みやすくなっている。ヒトでは地面は遠く普通の姿勢で歩いているかぎり地面の匂いはなかなか上がってこない。(1)

(中略)

ヒトは立ち上がることで高い視点を得て、それによって広い範囲を認識するようになった。食用に適する動物や植物を遠くから見つ

けるし、脅威となるものが見えれば速やかに退避する。(2)

7
ここでヒトは自分を中心とする世界図を描いてその中に自分の位置を定位している。これはヒトが樹上生活を捨てて平原に出た時に、**D**その後で知力が充分に高まった時に、身に付けた知的操作であったはずだ。あそこにあの丘があつて、あちらはあの林、振り返れば自分の後ろには一本の高い木。太陽と月は毎日あつちの方から昇つてあつちに沈む。(3)

これに記憶が加わると、あの丘の先には川があつて、その川は左手の方では急流だが右の方へ行くと緩やかになるなどということを考え、つまり直接は見えないところについても補完するようになる。(4)

つまりこれはヒトのその個体の脳内に描かれた地図である。ヒトは遠くまでの視覚を発達させて(8)を図式化できるようになった。嗅覚で世界を捉えているイヌは何十万もの匂いの一つを同定して記憶の中の匂いのリストと突き合わせることができ。これによって犬は(人間に飼われていなかったら)食物を得、危険を回避し、異性に会える。何よりも世界を認識することができ。それを駆動しているのは外界を知りたいという好奇心であつてそれはほとんど生きることと同じ。ひよつとしたらマダニについてもそう言えるのかもしれない。個体と環世界の基本の構図の根底には生

きる喜びがあるのではないか。これは科学に感情を持ち込むことだろうか。

(池澤夏樹『科学する心』より)

*1 甲虫…カブトムシやテントウムシのように前翅が硬くて鞘のようになつている昆虫の総称。

*2 生殖…生物が自らと同じ種類の個体をつくること。

*3 概念…ものごとについてのたまかな内容。

*4 酪酸…生物の体内で生成される物質。

*5 分泌液…体内から出される液体。

*6 トガリネズミ…体重約2グラムの種も存在する世界最小級の哺乳類。

*7 定位…位置を定めること。

*8 補完…不十分な部分を補つて、完全なものにすること。

問一

A) D) にあてはまる最もふさわしい語を、次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい (同じ記号を二回使ってははいけません)。

ア、そして イ、あるいは ウ、つまり

エ、ところで オ、一方 カ、しかし

問三

3 「これだけの要素」が指す内容としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、交尾を済ませたマダニは、産卵のために哺乳類の血液を求めらる。

イ、マダニは酪酸の匂いを手がかりに哺乳類のからだを感知する。

ウ、マダニは哺乳類のからだに付着したことを温度によって察知する。

エ、マダニは自分の出す分泌液によって産卵に使う血液を熟成させる。

問二

1 「言うまでもなく」・2 「よぎれば」の意味として最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

1 「言うまでもなく」

ア、もちろん

イ、きつと

ウ、たちまち

エ、すでに

問四

4) にあてはまる言葉として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、嗅かぎつける イ、吠ほえる

ウ、舐なめる エ、甘あまえる

2 「よぎれば」

ア、全く動かなければ

イ、目の前を包みこめば

ウ、通行をさまたげれば

エ、前を通り過ぎれば

問五

——5「ヒトは直立二足歩行という他から見ればとんでもない運動様式を採用した」とありますが、その結果としてヒトはどのようなになりましたか。最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、前足であった手が自由に使えるようになったことで道具の使用が可能となった。

イ、顔の位置が高くなったことで危険を察知するための嗅覚がするどくなった。

ウ、足のみで歩行することでエネルギー効率のよい動きができるようになった。

エ、手が自由に使えるようになったことで複雑な作業が可能となり脳が重くなった。

問七

——7「ここでヒトは自分を中心とする世界図を描いてその中に自分の位置を定位している」とありますが、これに対してイヌはどのようにして自分の位置を定位していますか。具体的述べられた一続きの二文をぬき出し、最初の五字を答えなさい。

問八

(8) にあてはまる言葉を文章中から漢字三字でぬき出しなさい。

問六

——6「寝ていて転んだためしはない」はことわざです。このことわざの意味として最もふさわしいものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、夢の中で起きたことで、痛みを感じることはない。

イ、余計なことをしなければ、失敗することはない。

ウ、危険をともしなう挑戦ちようせんをしなければ、得るものはない。

エ、やるべきことをやっていたら、結果もついてくる。

問九

——9「これ」がさす内容として最もふさわしいものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、ヒトや犬に限らず、極小の生物であるマダニでさえも外界に対する好奇心を持っていて、それが生物の生きる喜びであることとらえること。

イ、どのような生物も生きるための知恵を持ち合わせていて、命を失うかもしれない危険を事前に回避することで生きていく喜びを実感できるということ。

ウ、ヒトや犬などの哺乳類は常に新しい世界を探し求めている、それを自分の脳内に描いた地図に書き込むことで生きていく喜びを感じるということ。

エ、マダニが未知の世界に足を踏み入れることに生きる喜びを感じていることから、極小の生物にも好奇心があると科学的に証明すること。

問十

次の一文が入る最もふさわしい場所を、文章中の〈1〉〈4〉の中から選び、番号で答えなさい。

更に長い時間軸を加えれば、いつか雪が消えてすぐの頃^{ころ}にあの先でウサギを獲^とったなどということも書き込^こめる。

七

「信頼できる友人」を得るためにあなたならどうしますか。あなたの経験を入れて百五十字以内で述べなさい（句読点や記号も一字と数えること）。